

奈文研

ニュース

No.57

JUNE.2015

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市佐紀町247番1
<http://www.nabunken.go.jp>

飛鳥資料館 開館40周年を迎えて

明日香村奥山の閑静な地にたたずむ飛鳥資料館。今年、開館40周年の記念すべき年を迎えました。

飛鳥資料館は奈良文化財研究所の調査研究成果を展示するとともに、飛鳥を訪れた人びとが古代史について概観することができる、総合的な歴史系の博物館施設です。

今から半世紀ほど前、高度成長とともに各地で開発によって景観が無秩序に破壊されていました。そのような状況から、古都である明日香の風土を守ろうという機運が高まりました。一連の動きの中で、1970年の閣議決定を受けて、1973年に庶務室と学芸室からなる飛鳥資料館準備室が設置されました。時あたかも、1972年の高松塚古墳の発見によって飛鳥ブームが巻き起こっていました。古代史への関心が盛り上がる中、1975年3月に飛鳥資料館は開館しました。建物は谷口吉郎氏による設計で、モダンな外観は40年を経てなお魅力的です。資料館の立地は飛鳥の中心部から外れた交通不便な場所で、駐車場も長らくありませんでした。これは当時、景観保全や観光客に村内を広く周遊してもらう意図等、地元の要望もあったといいます。学芸室の研究員は4名でした(現在は3名)。

開館特別展示は「仏教伝来—飛鳥への道—」でした。1980年まで奈文研に美術工芸研究室があったため、初期には飛鳥や周辺地域の仏像研究が主要なテーマとなりました。展覧会は1978年度から年2回で定着し、2001年度の独立行政法人化とともに年3回、2005年度からは春夏秋冬の年4回となり、2011年度以降は大小合わせて年5~8回の展覧会を開催しています。近年の展覧会では、2006~2010年度と2013年度にキトラ古墳壁画の特別公開を開催し、大勢のお客様にご来場いただきました。

常設展示は奈文研の発掘調査成果を軸としています。第1展示室は飛鳥の宮殿や水落遺跡の水時計、

須弥山石等の石造物、高松塚古墳・キトラ古墳、飛鳥寺等の古代寺院に関する展示です。1997年にオープンした第2展示室は、山田寺に焦点をあてています。出土した建築部材による東回廊再現展示は、当館の大きな魅力となっています。

開館当初はたいへん賑わった飛鳥資料館でしたが、1985年度をピークとして、近年は来館者数が減っています。ほかにも課題が多くあります。築40年を過ぎて、施設の老朽化は否めません。お客様のニーズに応え、展示収蔵環境を万全に維持するためには、抜本的な更新が求められます。また、収蔵品の整理や保存修理事業の実施など、山積した問題も容易には解決できません。多忙な日々ではありますが、時間をかけてしっかりと調査研究をおこない、その成果を充実した展示と図録、企画等に結実させることが博物館の学芸の仕事の醍醐味です。なんとかそういう状況を実現させたいと模索しています。

古代飛鳥への関心の高さは、資料館に勤務すると肌で感じます。アンケートや口頭での多くのご意見は、我々の勉強になり、また励みとなっています。皆様の期待に少しでも応えられるよう、よりよい展示と館の活性化をめざして精進してまいります。

(飛鳥資料館 石橋 茂登)



飛鳥資料館の外観